

## 令和元年度 教育論文（道徳科）

「考え、議論する」道徳科授業の在り方に関する研究  
～質の高い多様な指導方法を目指して～



甲佐町立甲佐小学校  
赤星 桂子

## はじめに

新小学校学習指導要領（道徳）の全面実施から2年目となった今年度、指導教諭となりました。昨年度4年生を担当し、道徳の授業の難しさを感じていただけに自分にできるのだろうかと不安な気持ちで今年度をスタートしました。

まずは本校の先生方の力になりたいと、道徳のどんなところに悩んでいるか実態調査をすることから始めました。どの先生も「考え、議論する道徳とは何か。」

「新学習指導要領となり、どこをどう変えればいいのか。」など多くの面で悩んでいることが分かりました。また2学期になり多くの学校を訪問し、道徳の話をしていただくのですが、そこでも多くの先生方からの質問は「考え、議論する道徳の授業」に関するものがほとんどでした。指導教諭として、新学習指導要領の目指す「考え、議論する」道徳授業の在り方を研究することは、熊本県の先生方の力になれるのではないかと考え、本研究を進めることにしました。

今までの登場人物の心情ばかりを追った授業から脱却し、児童が問題意識を持って主体的・対話的で深い学びを実現するような道徳の授業の改善を目指し、取り組みました。特に平成28年12月の出された中央教育審議会答申で示された「質の高い多様な指導方法の例」を生かし、「道徳の授業をより一層魅力的なものにしたい。」そんな願いを込めて実践したことを本論文にまとめました。

拙い実践ですが、御指導、御助言をよろしく申し上げます。



友達と積極的に対話する児童の姿

# 目 次

はじめに

目次

I	研究の概要	P 1
1	研究主題について	
	(1) 研究主題	
	(2) 主題設定の理由	
	(3) 研究主題の捉え方	
2	研究の内容	P 3
	(1) 研究の仮説	
	(2) 質の高い多様な指導方法の工夫について	
II	研究の実際	P 4
1	仮説1 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	
	(1) 導入の工夫について	
	(2) 展開の工夫について	
	(3) 終末の工夫について	
2	仮説2 問題解決的な学習	P 8
	(1) 問題解決的な学習について	
	(2) 問題解決的な学習実践例	
3	仮説3 道徳的行為に関する体験的な学習	P 13
	(1) 動作化・役割演技を取り入れた授業	
	(2) エンカウンターを取り入れた授業	
III	研究の成果と課題	P 17
1	児童の実態から	
2	研究の仮説から	

参考文献

おわりに

## I 研究の概要

### 1 研究主題について

#### (1) 研究主題

「考え、議論する」道徳科授業の在り方に関する研究  
～質の高い多様な指導方法を目指して～

#### (2) 主題設定の理由

変化の激しい社会にあって、児童を取り巻く状況もめまぐるしく変わりつつある。家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、児童の心の活力が弱っている傾向が指摘されている。また【資料1】で示したように、道徳の授業に関する課題も挙げられている。それらの課題を解決するためには、児童一人一人が問題に向き合い、自分の頭で考え、他者と協働しながら、よりよい解決策を生み出していく力が不可欠となる。これらの力を今後の時代に生きる児童につけていく上で、道徳教育や道徳科に期待される役割はきわめて大きいと考えられる。

平成27年3月、学習指導要領の一部改訂の告示によって、道徳は「特別の教科 道徳」となり、小学校では平成30年度から完全実施されている。新学習指導要領では、道徳教育の目標を発達段階に応じて「自己の（人間としての）生き方を教え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と改められた。また「主体的・対話的で深い学び」を道徳科で言うと「考え、議論する道徳」となり、これは学習・授業改善の視点と示されたのである。「考え、議論する」道徳授業の在り方に関する研究をすることは、教育の今日的課題に直接つながるものである。

#### (3) 研究主題の捉え方

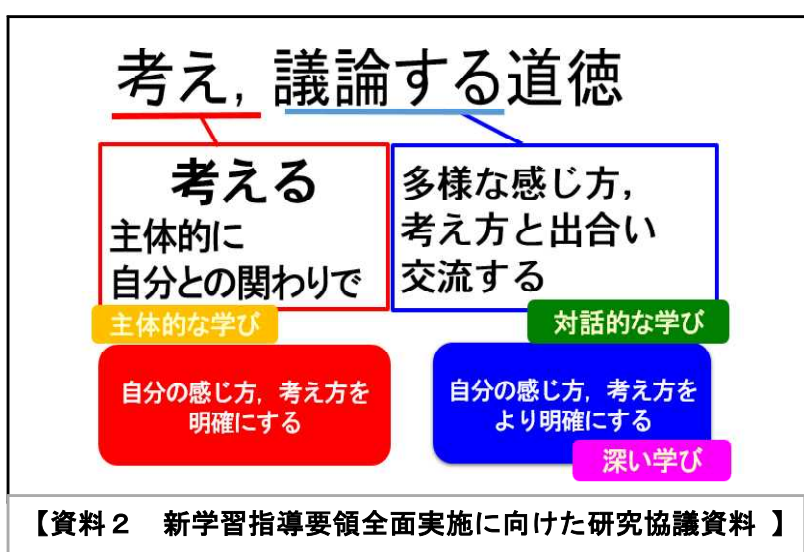
##### ア 「考え、議論する」道徳授業について

- 道徳教育と特別活動をはじめとする各教科等との役割分担や関連を意識した指導が十分ではない。
- 道徳の時間の指導方法に不安を抱える教師が多く、指導方法が単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけの型にはまったものになりがちである。
- 現代の児童にとって現実味のある授業となっておらず、学年が上がるにつれて道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない現状にある。
- 道徳の時間の授業で何を学ばせようとしているのかを児童生徒にも理解させた上で、具体的に実践させたり、振り返らせたりする指導が十分ではない。
- 道徳の時間の指導が道徳的価値の理解に偏りがちで、例えば、自分の思いを伝え、相手の思いを酌むためには具体的にどう行動すればよいかという側面に関する教育が十分ではない。

(道徳教育の充実に関する懇談会報告書より)

#### 【資料1 道徳教育の具体的な指導方法についての課題】

今回の改訂は、道徳教育を通して、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要であるとされている。「考え、議論する」道徳へと質的転換し、道徳教育の充実・強化を図ることを目的としている。そこで必要なことは、一人一人の児童が道徳的価値に根差した問題について、自分がどのように感じたり、考えたりするかが大事である。これにより、背景にある道徳的価値と自己との関わりを主体的に捉えることにつながり、自分の感じ方や考え方が明確になる。さらに異なる意見をもつ他者と議論することによって多様な感じ方や考え方と出会うことができる。他者と協働して考えることによって、多様な価値観の存在を認識するだけでなく、自分の感じ方や考え方がより明確になる。



## イ 質の高い多様な指導方法について

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門会議（H 2 8 年）の「特別の教科道徳の指導方法・評価等について（報告）」には、道徳科における質の高い多様な指導方法として、次の3つが挙げられている。「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」である。これらの効果的な組み合わせも大事である。従来から見られる「登場人物の心情のみの指導」や「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合い」に陥ってはいけない。道徳科で目指すのは、「考え、議論する」道徳授業になりうる指導方法である。

## 2 研究の内容

### (1) 研究の仮説

質の高い多様な指導方法を工夫することで、児童一人一人が道徳的課題を自分自身の問題と捉え「考え、議論する」道徳科授業が実現できるのではないかと。

### (2) 質の高い多様な指導方法について

	読み物教材の登場人物の 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する 体験的な学習
ねらい	教材の登場人物や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの擬似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
指導方法の 効果	・子どもたちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的である。	・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効である。 ・他者と対話や協働しつつ問題解決の中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性がある。 ・問題の解決を求める探求の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値がある。	・心情と行為とをすり合わせるにより、無意識の行為を意識化させることができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効である。 ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能になる。
指導上の 留意点	・教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。	明確なテーマ設定のもと、 ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記の「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。 といった検討やなければ単なる「話合い」の時間になりかねない。	明確なテーマのもの ・心情と行為との葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒指導になりかねない。

#### 【資料3 質の高い多様な指導方法】

【資料4】で示した「道徳科における質の高い指導方法」は、それぞれ独立した指導方法の「型」を示しているわけではなく、それぞれに様々な



展開が考えられ、例えば読み物資料を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられると示されている。

## II 研究の実際

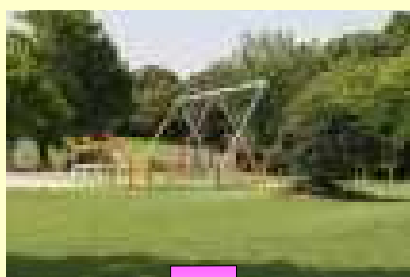
### 1 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

#### (1) 導入の工夫について

導入では、登場人物が自分から離れた存在ではなく、自分にも同じような面（経験）があることに気付くことで、教材がより身近なものとなる。導入において読み物教材や登場人物を自分と重ねて捉えられるような工夫を実践した。

#### 画像を活用した導入例

#### 「どんぐり」東書1年 ～規則の尊重～



「どんぐり」の導入では、自我関与できるように公園どんぐりの木の画像を提示した。

みんなが歩いていると公園に来ましたよ。(画像提示)  
どんな気持ちになりましたか。

・遊びたい！！ ・ブランコに乗りたくない～



公園に入っていくと木があったよ。

・知ってる！どんぐりの木だあ！



よく見るとどんぐりがたくさんありましたよ。

・たくさん拾いたいな！ ・嬉しい！ ・帰りたくない

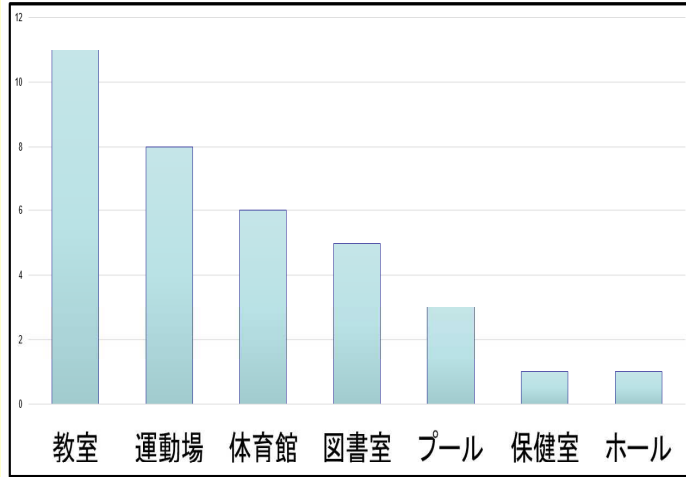
上記のように画像を見せながら、児童とやりとりをした。自分が自ら公園へ行ったかのような画像を活用することで、「学校の帰り道公園で寄り道をしたくなった登場人物の気持ち」にどの児童も共感することができた。

【資料4 「どんぐり」公園・どんぐりの木画像】

## アンケートを活用した導入例

### 「ぼくたちの運動場」つなぐ5・6年 ～生命の尊重～

#### 学校の好きな場所(6年)



【資料5 「ぼくたちの運動場」児童アンケート】

「ぼくたちの運動場」の導入では、事前アンケート結果を提示した。

登場人物（飯野小学校児童）が地震により運動場を失うことになるが、そのことがいかに大きな出来事であったか、他人事ではなく自分事として考えさせるためである。

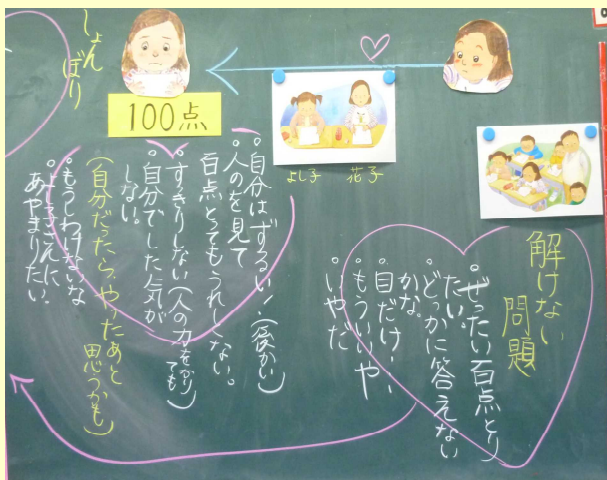
児童に「学校の中で好きなところはどこですか。なぜその場所が好きですか。」と事前に尋ね、その結果をグラフにして見せた。そのことで、自分たちにも大事な場所があることに気付かせることができ、登場人物の思いと自分の思いを重ねながら、授業に参加することができた。

## (2) 展開の工夫について

「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」は児童生徒が読み物教材の登場人物に託して自らの気持ちや考えを素直に語るすることができる。多様な感じ方や考え方が交流されることを通して、道徳的価値について理解、さらには自覚を深める上で効果的な指導方法となり得る。

## 読み物教材で自我関与を大事にした発問例

### 『見えた答案』東書5年 ～誠実・明朗～



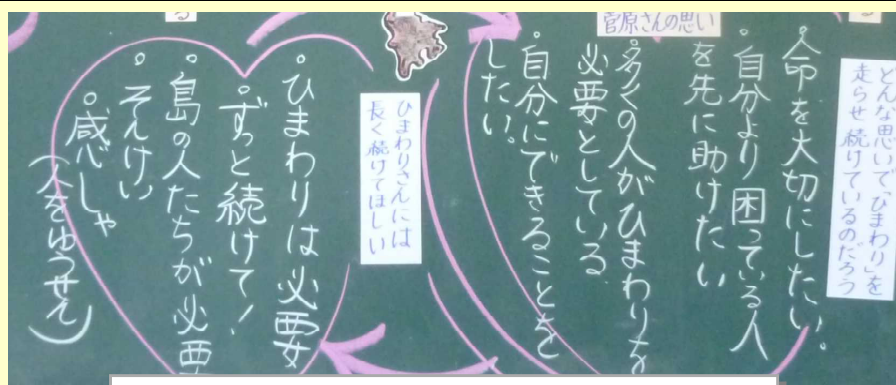
【資料6 「見えた答案」板書】

「見えた答案」の展開では、「花子（登場人物）は解けない問題があったときどんな気持ちになったでしょう。」「テストは満点だったのに、なぜ花子はみじめな気持ちになったのでしょうか。」と発問をした。この場合最初から「自分だったらどうしますか。」と直接的に尋ねると答えにくい。そこで上記のような発問をすることで児童は「やっぱり満点を取りたいから、解けない問題があったら、だめだと分かっているけども友達への答えを見たい。」などと自らの気持ちを登場人物に託して発言することで、本音を出し合えた。



## 違う立場の人物の心情を多面的・多角的に考える発問例

### 「ちいさな連絡船ひまわり」東書6年～よりよい学校生活・集団生活の充実～



【資料7「ちいさな連絡船ひまわり」板書】

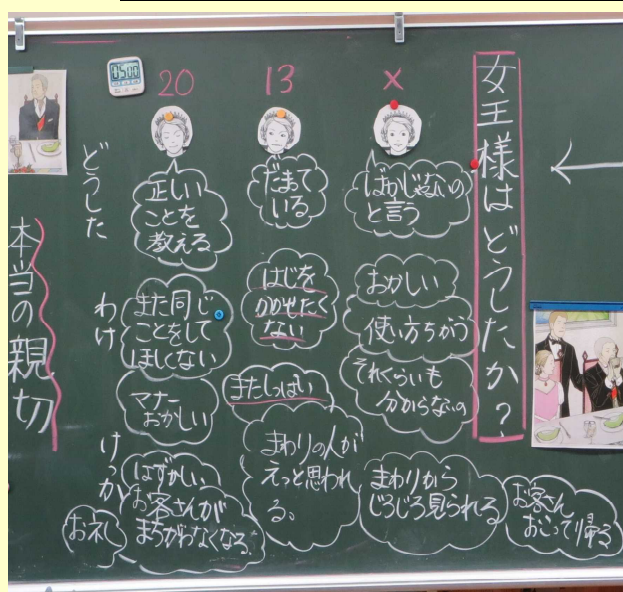
地域の人たちは、どんな思いでひまわりを是非続けてほしいと言ったのでしょうか。

菅原さんは、東日本大震災直後でもどんな思いでひまわりを走らせ続けていたのか。

「ちいさな連絡船ひまわり」は東日本大震災の直後も地域の人々の大事な足である連絡船を走らせ続けた菅原進さんの話である。上記のような2つの発問をすることで「地域の人を助けたい」と思いから役割を果たす菅原さんの気持ち」「命がけで地域のために頑張る菅原さんを心から尊敬・感謝している地域の人々の気持ち」の両者の立場を考えさせた。多様な立場の気持ちを考えさせることで、「役割を果たすことの大切さ」と「役割を果たすことでどのようなよさがあるのか」について多面的・多角的に考えさせることができた。よって児童の「役割や責任」に対する道徳的価値が深まった。

## 登場人物に自我関与し、行動を分析・予想する発問例

### 「フィンガーボール」東書4年～親切、思いやり～



【資料8「フィンガーボール」板書】

前半部分を読み聞かせ、女王様の行動を予想させた。

お客がフィンガーボールの水を飲んでいる様子を見た女王様はどうしたでしょう。理由も発表しましょう。

反応：①ばかにする。②黙っている。

③正しいことを教える。

予想した理由を考えましょう。また結果がどうなったのか考えましょう。

反応：①お客さんが怒って帰る。

②お客さんが、また失敗してしまう。

③お客さんが間違わなくなり、お礼を言われる。

登場人物の行動やその結果を予想させることで、よりよい行動とは何か、多面的・多角的に考えることが可能になった。

### (3) 終末の工夫について

本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それを交流して自分の考えを深めたりするような終末の工夫を実践した。具体的には「教師による説話」「本時で学習したことを今後どのように生かしたいか書かせる」「感想を聞き取ったり、学習で学んだことを振り返ったりする」などが考えられる。

#### 児童の心に響く「手紙」を活用した終末例

##### 「ちいさな連絡船ひまわり」東書6年

##### ～よりよい学校生活・集団生活の充実～



「ちいさな連絡船ひまわり」の授業の終末は、先生たちからの手紙を渡すことにした。事前に先生たちに依頼し、道徳ノートに挟んでおいた。「みなさんもちょうど役割を果たしているようですよ。」と語りかけ道徳ノートを開くように言った。6年生は道徳ノートからお手紙を発見しびっくりした様子だった。手紙には委員会や行事等で頑張っていることを褒めてあった。感想の交流では「先生たちが、ちゃんと見てくれていて嬉しかったです。これからも委員会の仕事など頑張っていきたいです。」と発言していた。

【資料9 先生たちからの手紙を読む児童】

#### 本当の登場人物と出会いがある終末例

##### 「ぼくたちの運動場」つなぐ5・6年 ～生命の尊重～



「ぼくたちの運動場」では、実際に教材となった飯野小学校の柴田元校長先生に授業に参加してもらった。

終末では「仮設住宅の人たちも参加した運動会のニュース映像」を鑑賞しながら、元校長先生の説話を聞いた。

児童は、何よりも大切なのは命であり、飯野地域の人たちが、困難を乗り越え力を合わせ一生懸命に生きていることを肌で感じる事ができた。

【資料10 柴田元校長先生との出会い】

## 2 問題解決的な学習

### (1) 問題解決的な学習について

#### ア 学習課題について

問題解決的な学習の学習過程を下記のように考えた。「考え、議論する」道徳科授業を実現するためには、児童自身に問題意識を持たせる必要がある。教師が設定した学習課題も効果的だが、児童が生み出す学習課題を生かすことは、主体的かつアクティブな学習へ近づき「考え、議論する」道徳授業になる可能性が高い。しかし、下記の【資料1 1】で示したように道徳授業は一時間扱いが多いことから、児童が学習課題を生み出すのに手間取ってしまったり、課題の内容が広がりすぎる不安があったりする場合がある。ねらい達成のためには、【資料1 2】のように、児童の問題意識を生かしつつ、教師が児童と共に学習課題を作り出す場合も考えられる。

#### 教師が示す学習課題

#### 児童が生み出す学習課題

◇教師の考える主題をことを優先	◇子どもの問題意識を生かすことを優先
・ 確実なテーマ設定が必要。 ・ 話し合いの時間の確保が可能。	・ 子どもの切実性が高まる。 ・ 子どもの追求意欲が高まる。
※教え、理解させる手順を大事にする傾向。	※子どもの追求したい順番を大切に する傾向。
△教え込み過程になりがち。 △価値の押しつけに陥りがちな不安。	△テーマが広がりすぎる不安。 △ねらいとする内容とズレてしまうとき の問題。

#### 【資料1 1 学習過課題のパターン：永田繁雄教授より】

#### 児童と教師でつくる学習課題

◇授業の主題と児童の問題意識と重ねることを重視
・ 児童の意識と教師の意図の両面が生かされる期待
※児童の追求の流れに教えたいことを仕組む方向。
△調整に時間がかかる不安。 △両者が大きく異なる場合の判断の問題。

#### 【資料1 2 学習課題のパターン：永田繁雄教授より】

## イ 問題解決的な学習の学習過程・発問例

問題解決的な学習を実現するためには、児童自らが学習課題を設定する効果について述べたが、問題意識をどう引き出すかという点も重要になってくる。【資料13】のような学習過程にそって、児童が自ら考え、議論しなくなるような発問をすることも大事である。

学習過程	発問例
<b>【導入段階】</b> 道徳的価値や資料への方向付け	<b>児童の問題意識を喚起する導入</b> ◇～（道徳的価値）とはどんなものでしょう。 ◇～（道徳的価値・資料に関するもの）を見て気付くことは何でしょう。
<b>【展開前段】</b> 教材を通した価値の追求	<b>問題意識を喚起する発問</b> <u>◇心に残ったことやもっと知りたいことや知りたいことは何か。</u> <b>問題の追及（道徳的な問題の分析・解決策の構想など）</b> ◇ここでは、何が問題になっていますか。 ◇なぜ～（道徳的価値）は大事なのでしょう。 ◇どうすれば～（道徳的価値）が実現できるにでしょう。 ◇同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ◇なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。 ◇自分も似たようなことはないか。 ◇よりよい解決策にはどのようなものが考えられるでしょう。
<b>【展開後段】</b> 道徳的価値に対し自分を振り返る。	<b>探求のまとめ</b> ◇今日気づいたことは何か。
<b>【終末段階】</b> 道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりする。	◇自分は今後どうありたいか。 ◇どんな場面に生かせそうか。 ◇新たな疑問や自分の課題は何か。

### 【資料13 問題解決的な学習の学習過程】

## (2) 問題解決的な学習実践例

問題解決的な学習を実現するために、実践を重ねてきたが、その中で「心と心のあく手」と「大きな絵はがき」の授業実践をまとめた。これらの授業実践は、授業をした学級の実態を把握し、指導のねらいに応じて適切に選んだ方法を選択した。「問題解決的な学習」の視点だけでなく「読み物教材の登場人物への自我関与」の視点も取り入れている。また ICT の活用をすることで、児童の多様な意見を視覚化できた。



# ICT（タブレット端末）を活用した問題解決的な学習実践例

## 「心と心のあく手」私たちの道徳3・4年 ～親切，思いやり～

ねらい：本当の親切とは相手に対する思いやりの心を持つことを理解し、親切な行為を進んで行おうとする判断力を養う。

### 1 親切について話し合う。



親切にすることは、大切ですか。タップしてください。

- ・全員の児童が○をタップ

みなさんは親切にしていますか。タップしてください。

- ・ほとんどの児童が×。数名が○をタップしていた。

※親切にすることは大事だと分かっているけど、なかなか親切にできないのはなぜだろうと問題意識を持たせる。

### 2 教材の前半を視聴し話し合う。



感想や疑問に思ったことはありませんか。

- ・ぼくは断られたとき、いやだったと思いました。
- ・自分なら声をかけないかな。はずかしいから。

※主題（ねらい）と児童の問題意識を発問にする。

おばあさんに声をかけたのに断られたぼくはどんな気持ちだったでしょう。

- ・もう声をかけたくない。 ・残念 ・損した気分

2度目におばあさんに会いました。みなさんなら声をかけますか。かけませんか。（かける：赤）（かけない：青）

- ・おばあさんに声をかける（赤をタップ）

おばあさんは足が不自由だから  
手伝いたいなあと思うから  
自分のおばあちゃんにも手伝っているから

- ・おばあさんに声をかけない（青をタップ）

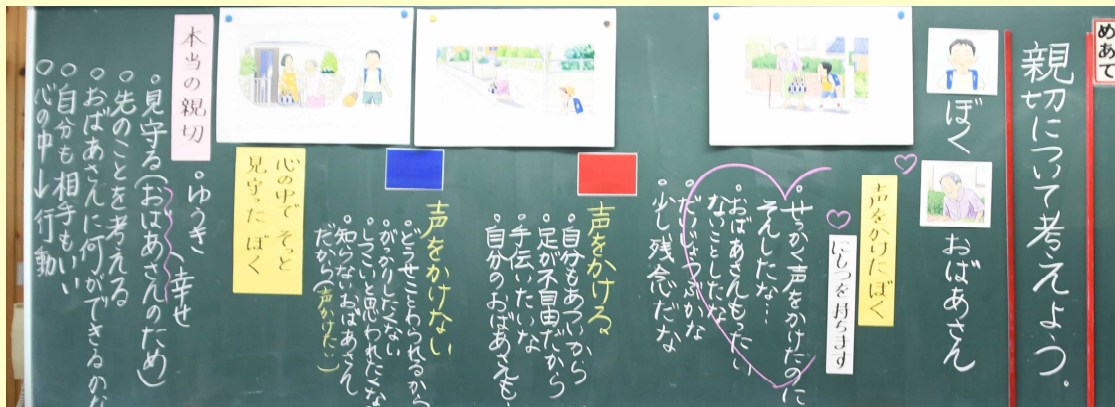
どうせ断られる がっかりしたくない  
あんまり知らないおばあさんだから



### 3 教材の後半を視聴し、話し合う。（ぼくは声をかけず、おばあさんの後をついていった。）

ぼくが分かった本当の親切って何だろう。 ※主題（ねらい）について深める。

- ・おばあさんのために見守ること ・おばあさんが幸せな気持ちになることが大事
- ・おばあさんに何が出来るか考えること ・先のことも考えて行動すること
- ・自分も相手もよいこと ・心の中にあるだけでなく行動に移すこと



## 体験的な学習を取り入れた問題解決的な学習実践例

### 「大きな絵はがき」東書4年 ～友情、信頼～

ねらい：友達と互いに信頼しあい、互いのことを考えて行動することで、友情を深めていこうとする心情を育てる。

#### 1 友達とはどんな人のことが考える。

友達とはどんな人のことですか。

- ・親しい ・優しい ・遊んでくれる

※友達とはどんな人か問題意識を持たせる。

#### 2 教材の前半を視聴し話し合う。

感想や疑問に思ったことはありませんか。

- ・お礼だけ言っておいたがいいというお母さんの考えがいいと私も思いました。
- ・ぼくは、ちゃんと言ったほうがいいと思いました。ひろこさんがどうしたか考えたいです。

※主題（ねらい）と児童の問題意識を発問にする。

料金不足を教えないか伝えるか考えましょう。自分の考えに近いほうにネームカード（青のネーム）を貼りましょう。

心のものさし：教えない（青色側）・伝える（赤色側）

自分の考えに近い登場人物になり役割演技をしましょう。

- ・（母）せっかく正子さんが送ってくれたんだから、お礼だけ言ったら？
- ・（兄）でも、正子さんが違う人に料金不足の葉書を送ったいけないよ。言った方がいいよ。
- ・（広子）どうしよう。迷ったけどやっぱり書く。だって～。

#### 3 教材の後半を視聴し話し合う。

なぜ広子さんは、料金不足を返事に書こうと決心したのでしょうか。

- ・自分のためではなく正子さんのためを思ったから。

※児童一人一人の変化が視覚化できるネームカードの活用

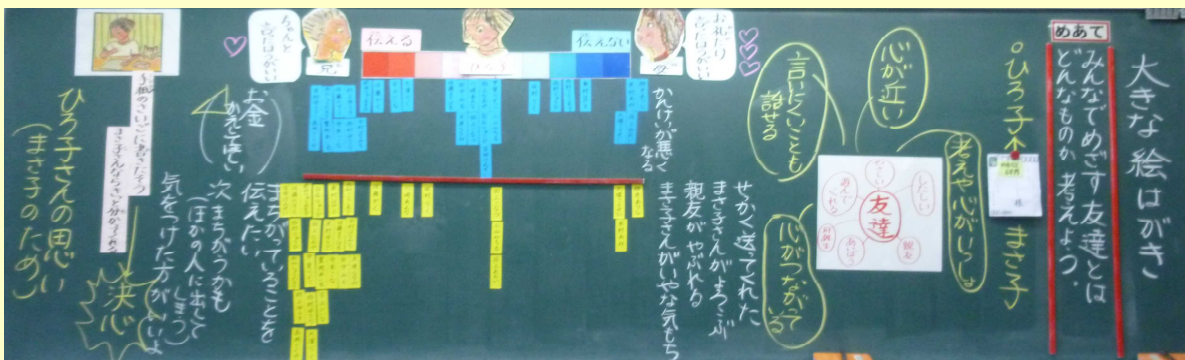
（話し合い後）考えが変わった人がいますか？今度は黄色いネームカードを下に貼りましょう。

- ・さっきは言わない方がいいと思ったけど、変わったな。

#### 4 本当の友達について考える。

本当の友達とはどんな人のことですか。

※主題（ねらい）について深める。・言いにくいことも話せる。・心と心がつながっている。





## クイズを生かした導入で問題意識を高めた実践例

### 「いのちのまつり」東書3年～生命の尊重～

ねらい：生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を養う。

#### 1 クイズを考え、沖縄のお墓参りを知る。



(左側の画像を見せながら) 何をしているところでしょう。

- ・お花見かなあ ・お弁当食べてる ・太鼓をたたいている人がいるよ

(右側の画像を見せる) 何をしているのでしょうか。

- ・えーっお墓？お墓で何しているのかな？ ・お墓参り???

※なぜにぎやかなお墓参りをするのか、  
命はどんなものか問題意識を持たせる。

今日は『命は〇〇〇』について考えます。」と告げる。

- ・命は大事！分かってる！と児童がつぶやく。

ご先祖様！命  
をありがと  
う！命を大事  
にします！

#### 2 教材を視聴し話し合う。

なぜ、沖縄の人はこんなににぎやかなお墓参りをするんでしょう。

- ・天国へ行った人も楽しんでもらいたい。

ぼくのご先祖様がたくさんだと分かってどんな気持ちになったでしょう。

- ・ご先祖様がたくさんだあ！命がいっぱい！  
・ぼくに似ている人もいるなあ。

みんなは、ご先祖様に何と言いたいですか。実際に空に向かって言ってみよう。

- ・ありがとう！ひいひいひいばあちゃん  
・ご先祖様のおかげで今生きているよー  
・ぼくたち、命を大事に生きていきます！！

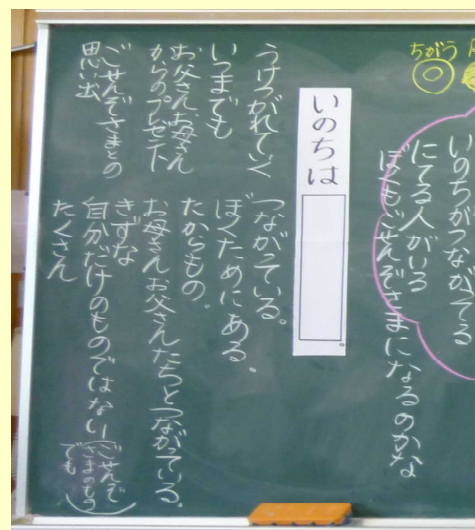
※主題(ねらい)について深める。

#### 3 命について考える。

『命は〇〇〇』について考えます。」

- ・命は受け継がれていくもの。  
・命はつながっている。  
・命は自分だけのものではない。 等

※最初は「命は大事」とだけ言っていた児童だが右の板書のように多面的多角的に考えが広がった。



### 3 道徳的行為に関する体験的な学習

#### (1) 動作化・役割演技を取り入れた授業

##### ア 動作化・役割演技について

動作化	役割演技
<ul style="list-style-type: none"> <li>教材中にある場面における登場人物等の動きや台詞を模倣したり、それに反復したりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の場面状況における役割を与え、登場人物になりきって、即興的に演じること。そのためその児童なりの価値観が表れてくる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>※児童が登場人物に親近感をもち、その感じ方や考え方を自分事として想像できるようになる。</li> <li>※児童が道徳的価値のよさ（価値理解）やその実現の難しさ（人間理解）等を実感をもって理解できるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※役割演技は教材のストーリー通りに行うのではなく、道徳的価値に関わる問題場面において、自分の経験や感じ方・考え方を振り返りながら問題の対策等を考えさせることができる。</li> </ul>

#### 【資料 17 動作化と役割演技の特徴・効果】

上記の資料のように、動作化と役割演技には違いがあり、それぞれの効果も違う。それらを理解した上で授業に取り入れた。

##### イ 動作化・役割演技を取り入れた授業実践

低学年を中心に、動作化や役割演技を取り入れた授業実践を行うことで、価値理解・人間理解等で大変効果があった。

#### 動作化を取り入れた例



どんぐり拾いに夢中になり、寄り道をしてしまった登場人物になりきるため、どんぐりの画像を見せた後、下記のような発問をした。

どんぐりがたくさん落ちていますよ。みなさんならどうしますか。（拾ってみてもいいですよ。）

#### 「どんぐり」東書1年 ～規則の尊重～



#### 【資料 18 どんぐりを拾う動作】

児童は「やったあ」「たくさん拾ってお母さんにもあげよう」などと言いながら熱心に拾う動作をしていた。動作化を取り入れることで、登場人物になりきることができた。

## 動作化を取り入れた例

### 「あいさつすると」東書3年 ～礼儀～



【資料19 最高に良い挨拶の動作化】

導入で「最高に良い挨拶とは何か」考えさせると、「口をあげる」「大きな声」「帽子をとる」などと表面的な発言ばかりだった。授業を通して、登場人物の行動を通して「挨拶の良さ」に気付いた児童は「最高に良い挨拶は心を込めた挨拶」「優しい心でする挨拶が大事」などと心情面にも気付くことができた。そこで展開後

実際に最高に良い挨拶をしてみよう。

と、呼びかけ、動作化を取り入れた。

動作化を入れたことで学びがより深まり、実践意欲が高まった。

## 「1対多数」で役割演技を取り入れた例

### 「どんぐり」東書1年 ～規則の尊重～



【資料20 役割演技】

展開では発問をした後、多様な考えが出るよう「役割演技」を取り入れた。「どんぐり」では、寄り道をしてしまい母親にと問い詰められ、どんどん嘘をついてしまう登場人物の演技を児童にさせた。母親役を教師が行い、語りかけていった。

なぜ、遅かったの？何をしていたの？

などと問いかけ、児童が即興的に答える問いパターンをとった。まずは全体に問いかけ、それぞれが自由に答えられるような場を確保した。その中で気になる発言した児童がいた場合、直接声をかけ、やりとり（役割演技）をした。

## 「1対1」で役割演技を取り入れた例

### 「くまくんのたからもの」東書2年 ～思いやり、親切～



【資料21 役割演技】

穴から助け出してくれたくまくんに対して、ねずみくんが「1つのどんぐり（くまくんがねずみくんを助けるために捨てたもの）」を渡すというストーリー。くまくんの親切が嬉しかったねずみくんの心情に迫るため役割演技を取り入れた。

ねずみくん、どんぐりありがとう。・・・(教師)

「ぼくこそありがとう。助けてくれたお礼だよ。」

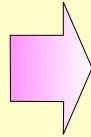
「くまくんの宝ものでしょう。」などと、親切にされた気持ちを自分事として考えることができた。即興で答えるため、多様に児童の価値観が出ていた。

## 学級全体を巻き込んだ役割演技の例

### 「ええところ」東書1年 ～個性の伸長～

主人公あいちゃんが、友達のともちゃんの言葉によって、「自分の良さ」に気付いていくというストーリーである。教師がともちゃん役、児童があいちゃん役となった。

役割演技で大事にしたいことのひとつに、役割演技を見ている児童の「気付き」を交流する場を設定することである。



あいちゃんのええところは、みんなに優しいところや（教師）

- ・ありがとう！教えてくれて。
- ・本当！とってもうれしいよ！
- ・これから、もっとみんなに優しくしよう。

見ていたみなさん、どんなことに気付いた？

- ・ともちゃん（役の友達）は、とっても嬉しそうなお顔だったです。
- ・あいちゃんのいいところを見つけたともちゃんも優しいと思いました。

上記のように、「気付き」の場をつくり、意見を交流することで、役割演技する児童も、見ている児童も学びのある道徳授業になった。

#### 【資料22 役割演技】

## (2) エンカウンターを取り入れた授業

### ア エンカウンターについて

エンカウンターとは「心と心の触れ合い」を意味する。エンカウンターを行うことで自分自身や友達に対する気付きが生まれ、それを振り返ることで、自分の気持ちを明確にしたり、肯定的に受容しあうことにより人間関係づくりに効果がある。

#### 【資料23 エンカウンターの取り入れ方】

- ①導入段階で取り入れ、価値の方向付けに活用する。
- ②展開前段で読み物資料に加えて活用する。
- ③展開後段でこれまでの自分を見つめるために活用する。
- ④終末段階で実践意欲を高めるために活用する。



## イ エンカウンターを取り入れた授業実践

エンカウターの取り入れ方の④「実践意欲を高めるために活用する」を1年生の道徳授業「ええところ」で実践した。

### エンカウンターを取り入れた例

#### 「ええところ」東書1年 ～個性の伸長～

1年生の事前アンケートでは「自分のよいところがない・自分のよいところが分からない」という児童が3分の1ほどいた。そこで「ええところ」の終末では、「自分のよいところ」に気付かせる「よかところハンド」を取り入れた。



#### 「よかところハンド」の取組

- 1 手形のカードを背中に貼る。
- 2 友達と交互に、手形カードの指に「良いところ」を書いてもらう。
- 3 書いてもらったら「ありがとう」と言う。
- 4 一斉に背中のカードを取って、見る。
- 5 感想を交流する。

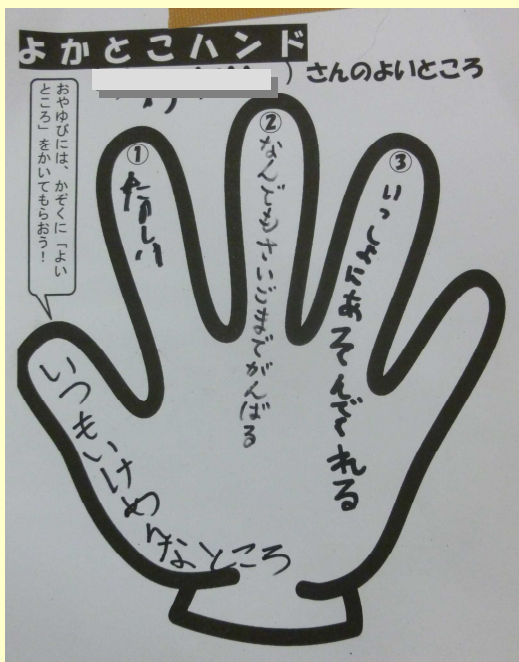
「あいさつが  
じょうず」っ  
て書こう！

児童のカードには

- ・いつもやさしい
- ・いつもがんばるところ
- ・あそびにさそってくれる
- ・たのしい
- ・おもしろいところ・・・など、  
たくさんの温かい言葉が書かれていた。



うれしいな！  
わたしっていいとこ  
ろいっぱい！



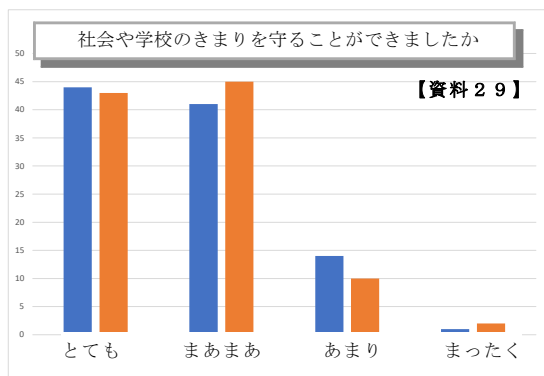
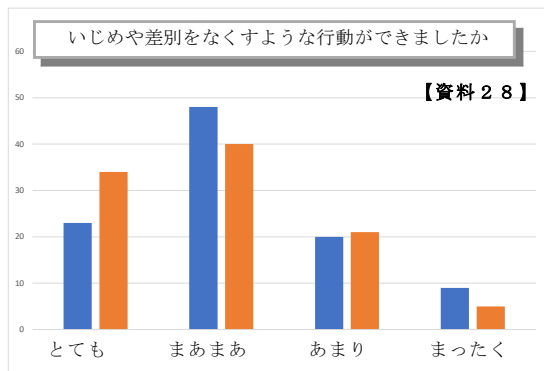
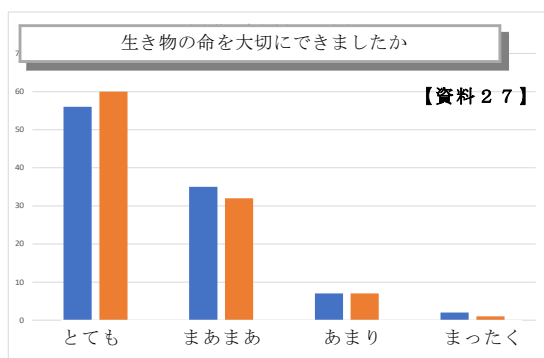
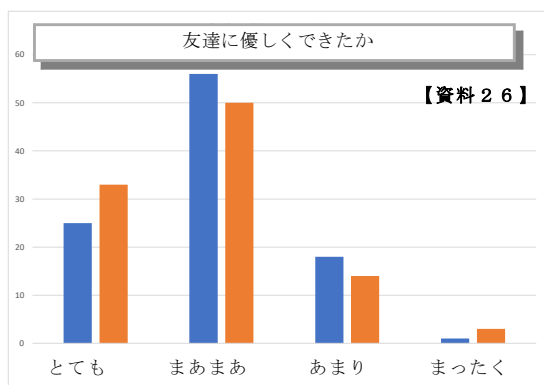
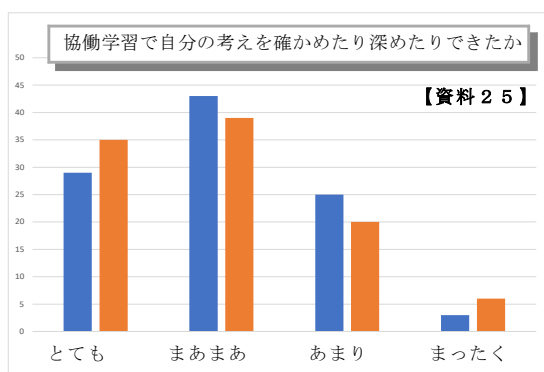
自分には良いところが無いと言っていた児童も教材から学んだり「よかところハンド」をしたりすることで、「よいところがいっぱいありました。」と教室が笑顔でいっぱいになった。

エンカウンターを取り入れることで、道徳授業に主体的に参加する児童ばかりだった。

【資料24 「よかところハンド」】

### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 児童の実態から (青：7月 赤：12月)



#### アンケートの結果から

○「質の高い多様な指導方法の工夫」を実践することで、主体的に対話をする機会が増えた。

【資料 25】に見られるように、共働学習で自分の考えを確かめたり深めたりととてもできたという児童が6%も増えている。

○【資料 26・27・29】では、児童の心の成長が分かる。友達や生き物に優しくできるようになったり、きまりを守れるようになったりしている。道徳科授業で学んだことを自分事と捉え、日常生活へ生かしていることが、この結果から分かる。

○特に【資料 28】では、7割以上の児童がいじめがなくなるよう自ら行動ができています。それはすばらしいことで、道徳的価値を正しく理解し、自己の生き方をよりよいものとしている。

#### 授業での児童の様子や声から

○「質の高い多様な指導の工夫」を目指し、多様な指導をすることで、児童の授業に対する集中力が伸びた。導入で問題意識を高めるような工夫をすることで、「学びたい」という思いを持たせることができた。

○低学年では、役割演技を取り入れることが多かったが児童の受け取りもよかった。

「登場人物になるのは楽しい。」「劇にするので、よく分かります。」と感想を持っていた。

○中学年では、ICT を活用した授業実践をしたが、「友達の意見がいろいろあるのが、すぐに分かって、話し合いがしやすかった。」と言っていた。友達と自分の考えの違いが画面を見ると一瞬で分かるので、対話や議論の時間が十分確保できた。

○高学年では、「みんなで話し合うことで、いろいろな考えがあると分かった。」「いろんな生き方の人と出会えた。」「先生たちから手紙をもらってこれからも役割(委員会の仕事など)をしっかりとろうと思った。」など、道徳科授業で学んだことでの成長が見られた。



## 2 研究の仮説から

### 仮説について

#### 【読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習】

○「あなただったらどうしますか。」などと発問した場合、「自分だったら嘘をつくと思います。」などとは言いにくい。しかし登場人物への自我関与させることで言いにくいことも登場人物に自分を重ねて発言させることで、素直な感情を伝えることができた。読み物教材の登場人物への自我関与を大事にした授業を行うことで、表面的な理解ではなく、道徳的価値を深めることができた。

○登場人物に自我関与させるため、ICT を活用は効果的だった。1年道徳授業「どんぐり」の導入では「皆さんは今、道を歩いていました。」などと言いながら「公園の画像→どんぐりの木の画像→どんぐりの画像」をスライドショーで見せた。児童がその場にいるような擬似体験ができ、読み物の登場人物への自我関与ができた。

△表面的な心情理解のみの指導になり、児童が自分と重ねられず本音が出せないことがあった。指導者が明確な主題設定をしていなかったためと考えられる。

#### 【問題解決的な学習】

○問題解決的な学習は、児童の意欲を高めることができた。教材視聴後、「感想はありませんか。」「もっと知りたいところや考えたいところがありますか。」などと聞くことで、児童が主体的に「○○について考えたい！」と考えるようになった。自分の考えたい道徳的問題について学ぶので、児童の切実性が高い発問ができ、「考え、議論する」道徳授業ができた。

○児童から出た問題意識を大事にし課題設定する際、児童の言葉をそのまま取り上げることもあるが、児童の考え（問題意識）を生かしながら教師がより児童が考えたいくなるような発問を意識した。

△児童から、うまく疑問点や学びたいことが出ない場合、どう問題意識を高めるかが今後の課題である。また、児童一人一人の問題意識が多岐にわたった場合、どう集約するか難しかった。

#### 【道徳的行為に関する体験的な学習】

○特に低学年・中学年に「動作化や役割演技」は、児童が教材に自我関与するのに効果的だった。実際に「どんぐりを拾う動作」「優しくまくんにお礼をいうねすみくんの役割演技」「本当に自分のご先祖様に語りかける体験」などどれも、児童が目や手を動かしながら自然に道徳的問題について考え始めたり、対話（議論）が始まったりすることが分かった。

○役割演技にはいろいろなパターンがあり、それを駆使して行った。特に大事なのは役割演技を見ている児童を傍観者にしないことだった。「どんな表情していたかな。」「見ていて気付いたことは何ですか。」と積極的に発言させた。

○動作化や役割演技での配慮事項に「教師が児童をその気にさせること」である。例えば輪話術ももちろんだが、お面等のグッズや場づくりも大事である。

△どこをだれが役割演技するかは、指導者が明確な主題設定によって変わる。教材によってパターン化するのではなく、指導者が事前にしっかり考えて行う必要があると思った。

#### 【多様な指導方法について】

○上記の3つの指導方法をうまく組み合わせることが大事だと思う。また3つ以外の優れた質の高い指導方法もこれから研究していく必要がある。

## おわりに

本年度は、指導教諭としてスタートし、各学級でたくさんの道徳授業の実践ができました。これらの授業は、すべて本校の先生方に参観していただいたものばかりです。

「はじめに」でも書きましたが、道徳授業の改善で悩んでいる本校の先生方に「考え、議論する」道徳授業とはどういうものか、拙い授業ではありますが、まず見せることが大事だと思ったのです。失敗もたくさんありましたが、教師の明確な主題設定をし、多様な指導方法を実践することで、「先生方のスキルアップ」と「児童の心の成長」が見られました。

今年度、「質の高い指導方法」として3つの方法を中心に実践をまとめましたが、これらの指導方法の組み合わせや新たな質の高い指導方法の開発も実践していきたいと思っています。また、今年度は県内のたくさんの学校を訪問させていただき「考え、議論する」道徳授業の在り方について話をしてきました。これからも多くの先生方に自分の実践を紹介したり、共に学び合ったりしていきたいと思っています。

ある研修会で「研修は何のためにすると思いますか。自分自身がチェンジするためです。」と言われたことを覚えています。現状維持ではなく、これからも「チェンジ」する、そんな自分であり続けたいです。

### 【主な参考文献】

※小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H 27年3月 文部科学省

※道徳教育 2016 NO701 明治図書